



今日の製品開発では、設計プロセスで必要とされる構造検討の大部分をコンピュータシミュレーションで行えるようになってきました。シミュレーションは従来の試作・実験を繰り返すのに比べて業務の大幅な効率化につながるため、いまでは多くの製造業で活用されていますが、有効活用に至るまでにはいくつかの課題があるのも現状です。本セミナーでは、製品開発における振動設計をテーマに、シミュレーションを用いて制振設計を行う上での各種ポイントをご紹介します。

トピックス 1

シミュレーションとは現実を再現したり予測したりすることです。したがって常に再現精度や予測精度が問題になるわけですが、いつしか予測結果を前に「信じる?信じない?」の議論になってしまいがちです。そのようなとき重要となるのが前提条件です。シミュレーションは万能ではありません。必ず前提条件を明確にしてからシミュレーション結果をみたりディスカッションしたりすることが大切です。

トピックス 2

振動の少ない製品を開発するためには”課題バラシ”が欠かせません。製品を構成する各部位を「入力系-伝達系-応答系」に分け、各々への目標値を割り付けて、その実現性を検討することを意味します。振動設計のスタートポイントで課題バラシが十分なされていれば、各課題を達成することで、たとえば、
「1 (入力系目標) × 0.5 (伝達系目標) × 1 (応答系目標) = 0.5 (製品の振動目標)」
のように最終的な製品目標を達成できるようになります。

セミナー開催概要

- 開催日時：2015年11月4日(水) 15:00-18:00 (開場 14:30)
 - 参加費用：5,000円 ※開催2週間前までにお申し込みいただいた場合：4,000円
 - 申込方法：弊社ホームページよりお申し込みください。
 - 開催会場：ハウスクエア横浜 (横浜市都筑区中川 1-4-1)
 - ・電車でご来場の方・・・横浜市営地下鉄ブルーライン「中川駅」から徒歩2分
 - ・お車でご来場の方・・・第三京浜「都筑インター」、東名高速「川崎インター」「横浜青葉インター」から約10分
- ※お車でのご来場のお客様は地下駐車場をご利用いただけます。駐車料金につきましてはご利用者様にてご負担ください。

Simulating Reality